

アトピー対策のポイント「抗炎症外用薬とバリアスキンケア」

アトピー対策のポイントは、まず抗炎症外用薬(ステロイド/タクロリムス軟膏)を用いて、速やかに痒みと炎症を抑えること。その後、バリアスキンケアで痒みや炎症を繰り返さない状態を維持することです。海の森化粧品は、一時的に症状を抑える従来の保湿ケアとは違い、ダメージのある皮膚バリアを修復するバリアケアで、肌力が正常に機能する皮膚環境をつくり、痒みや炎症などを繰り返さない肌へ導くのが特徴です。

●アトピー肌「慢性的にバリア機能が低下している」

皮膚には元々外からの刺激と水分喪失を防ぐ皮膚バリア(皮脂膜・角質層)が備わっていますが、アトピーの方の皮膚は、皮膚表面の皮脂膜が不十分で、角質層バリアが低下しているため、乾燥しやすく、外部刺激に対して非常に敏感な皮膚状態になっています。特に、バリアの要となる角質バリアが著しく低下しているため、皮膚内部の水分が蒸散し、紫外線や化粧品、医薬品、黄色ブドウ球菌、ダニ・ホコリなどのアレルゲンが皮膚表面を刺激したり、皮膚内部に侵入することで抗原抗体反応が起こり、乾燥・湿疹・赤み・痒み・腫れなどの症状が現れます。表皮新陳代謝も乱れているため、皮膚表面が厚く硬く、ゴウゴウ・ガサガサ・ザラザラなど、アトピー肌特有の様々な症状が現れます。

本来皮膚バリアは壊れても、皮脂・汗分泌機能/表皮新陳代謝(肌力)によって、自分の力でバリアを修復・維持できるようになっています。しかし、アトピーの方の皮膚では、日頃の洗顔剤や保湿ケアなどの繰り返しによって皮膚バリアを壊し続けた結果、肌力そのものが著しく低下し、慢性的にバリア機能が低下しているため、乾燥をはじめとしたアトピー特有の症状がなかなかおさまらない状態になっています。

●従来のアトピースキンケア「一時的に症状を抑える一方、症状の悪化につながる」

皮膚科では、ヒルドイドやワセリン、尿素などを処方。基礎化粧品を用いたアトピースキンケアでは、化粧水で水分や保湿剤を角質層へ浸透させ、水分が逃げないように皮膚表面を保湿化粧品の油分でフタをする保湿ケアが中心でした。また、炎症や痒みをおさえるために抗炎症剤や抗ヒスタミン剤を配合したり、増殖した黄色ブドウ球菌を殺菌するため殺菌剤を配合していました。

何れも、使用直後は症状がおさまる一方、特に保湿ケアでは多量の油分や合成界面活性剤、アルコール、化学薬剤を必要とするため、継続使用は肌力低下につながり、かえってアトピーを悪化させていることに多くの方が気付いていません。保湿ケアは一時的に症状を抑えるケアで、アトピー肌を改善するケアではないことを理解することが大切です。

●海の森化粧品「一時的に症状を抑えるのではなく、症状を繰り返さない肌に」

海の森化粧品は、含有のタイプ1のセラミド(リノール酸、天然ビタミンE含む)が皮膚バリア修復することで、外からの刺激や角質層からの水分蒸散をストップします。特に角質バリアは微量の油分で修復できること、また合成界面活性剤やアルコール、化学薬剤不使用であることから、肌力が正常に働く皮膚環境をつくることができます。時間はかかっても※、肌力が機能するにつれ、潤いが保たれ、外からの刺激に強い肌になり、痒みや炎症を繰り返しにくくなっていくのが特徴です。

(※時間がかかるのは肌力の一つ「表皮新陳代謝(ターンオーバー)」が影響しているためです。詳細は別紙「海森水(髴水)の効果的な使用方法 5 ページ目、なぜ海の森スキンケアは、結果が出るまで時間がかかるのか」参照)。

抗炎症外用薬(ステロイド/タクロリムス軟膏)について「まず速やかに痒みと炎症を抑える」

アトピー対策で何よりも大切なことは、搔かないことです。搔くと、元々傷んでいる皮膚バリアを更に傷め、肌力がますます低下し、痒みや炎症の悪化につながります。搔かないためには、ステロイドなどの抗炎症外用薬を用いて、速やかに痒みと炎症を抑えることが大切です。抗炎症外用薬は、長期使用しなければほとんど副作用出ないことが確認されています。医師の指導の元、用量・用法を守れば、安心・安全に使用できます。特に、初期の炎症段階であれば、抗炎症外用薬の使用を、少量・短期間に抑えることができます。